

大都会に息づく生き物たち

附属自然教育園の生物相調査より



2019年1月27日(日) 12:30より受付開始

国立科学博物館 [日本館] 2階講堂

東京都台東区上野公園 7-20

〈主催〉 国立科学博物館

〈参加費〉 無料

※ただし、別途入館料が必要です。

(一般・大学生：620円、高校生以下・65歳以上：無料)

〈定員〉 100名

※定員に達し次第、受付終了となります

〈お問い合わせ〉 国立科学博物館附属自然教育園

TEL: 03-3441-7176



お申し込み方法

ホームページよりお申し込みください。

<http://www.kahaku.go.jp/event/2019/01sympo>



アクセス



〒110-8718
東京都台東区上野公園 7-20
<交通のご案内>
JR「上野駅」公園口から徒歩5分
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から
徒歩10分
京成電鉄「上野駅」から徒歩10分
(駐車場はありませんので、車での来館はご遠慮ください。)

プログラム

13:00~13:10

開会挨拶

濱尾 章二 (国立科学博物館 動物研究部)

13:10~13:40

チョウとガからみる自然教育園

神保 宇嗣 (国立科学博物館 動物研究部)

13:40~14:10

都心の緑地に棲むクモ類：

大都会のクモ相の特性とその将来を探索

小野 展嗣 (国立科学博物館 動物研究部)

14:10~14:40

自然教育園の動物の寄生虫

脇 司 (目黒寄生虫館)

14:40~15:00

— 休憩 —

15:00~15:30

自然教育園の種子植物

秋山 忍 (国立科学博物館 植物研究部)

15:30~16:00

身近な環境の奇妙な菌類たち

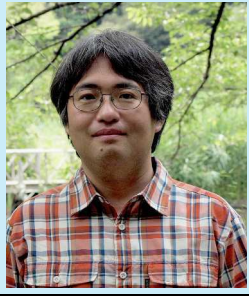
～カビからきのこまで～

保坂 健太郎 (国立科学博物館 植物研究部)

16:00~16:30

まとめ

講師紹介・講演概要



チョウとガからみる自然教育園

神保 宇嗣（国立科学博物館 動物研究部）

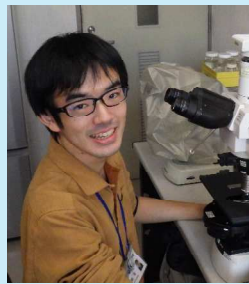
チョウ・ガ類は、2年間昼から夜までの調査を実施した結果、300種以上が記録されました。水生植物園を中心に、都心では数少なくなった環境の種が含まれ、生態系としての自然教育園の貴重性が再認識されました。



都心の緑地に棲むクモ類:大都会のクモ相の特性とその将来を探る

小野 展嗣（国立科学博物館 動物研究部）

数次の現地調査の結果、自然教育園において約200種のクモ類の生息が確認されました。この結果とこれまで演者が行ってきた皇居および明治神宮の森の調査結果を合わせて、大都会の緑地のクモ相の特性と、将来のサステイニングライフに向けて、それがもつ生態学的な意義を探ります。



自然教育園の動物の寄生虫

脇 司（目黒寄生虫館）

寄生虫の種と生態は驚くほど多様で、都心に生きる身近な生き物の体からも見つかります。ここでは、附属自然教育園生物相調査で見出された寄生虫について、3年間の結果をもとに解説します。



自然教育園の種子植物

秋山 忍（国立科学博物館 植物研究部）

東京の都心に位置する自然教育園には多くの種子植物が生育して、様々な生物の生育・生息場所となっていることが知られています。過去の調査の結果と比較して、大都会の中の緑地としての現在の種子植物相について紹介します。



身近な環境の奇妙な菌類たち～カビからきのこまで～

保坂 健太郎（国立科学博物館 植物研究部）

菌類学者の間では、都心にある自然教育園から不思議な菌類が見つかることが、密かに知られています。「絶滅」したと考えられている菌類までもが、記録されているのです。カビからきのこ、変形菌に至るまで、調査と研究の様子を紹介します。



開会挨拶/司会

附属自然教育園 生物相調査 研究総括

濱尾 章二（国立科学博物館 動物研究部）

